

<令和4年度小平第十小学校学校経営方針>

校長 西 俊幸

《はじめに》

今年度も、これまでの伝統を継承し、地域との連携を図りながら、引き続き全教職員が一丸となり、子どもたちの健全な成長と豊かな学びを創造していきます。その柱となるのは、「小平市教育振興基本計画」です。その基本理念「はぐくみ・支え合い・学びでつながる 小平の人・まち・未来」に基づきながら、本年度の学校経営を進めて参ります。

子どもは、家庭、地域、学校を生活の場としていますので、この三者が相互に理解し合い協力し合って子どもを育てていくことが大切です。また、校内の全教職員が共に支え合う意識をもち、組織として課題に取り組むことも重要です。

1 学校の教育目標

- ・考える子 …………… 正しく判断し、根拠を明確に自分の考えを表現できる児童
- ・やさしい子 …………… 自他の生命を尊重し、自分も友達も大切にできる児童
- ・やりとげる子 ……… 失敗から学び、最後までやりとげる児童
- ・たくましい子 ……… 自己有用感を高め、心身共に健康な児童



小平市立小平第十小学校 校章

2 目指す学校の姿

笑顔いっぱい 夢いっぱい とともに伸びゆく 小平十小
～分かる授業づくり 居心地のよい学級・学校づくりを通して～

子どもが、学校で過ごす多くの時間は、授業時間です。授業の中で、子どもの「分かること」や「できること」が増え、教師と子ども及び子ども相互の人間関係が作られ、学級の雰囲気形成されていきます。だからこそ、我々教師は、授業を大切にしなければなりません。

そこで、目指す学校の姿に迫るため、以下の点が重要だと考えます。

- ① 義務教育9年間の基礎となる小学校が、学力向上の礎となる分かる授業づくりを進めていくこと。
- ② 子ども一人一人にとって居心地のよい場づくりに励む学級経営・専科経営を推進し、次代を担う子どもたちの夢と希望の自己実現を支援していくこと。

また、令和4年度もコロナ禍での教育活動が展開されることが予想されます。これまでと同様に、小平市立学校版感染症予防ガイドラインに基づき、教育活動を展開します。学校生活の過ごし方については、「小平十小新しい生活様式」に基づいて指導します。

3 具体的な方策

(1) プロジェクト1「すべての子どもの生きる力を強化する」

- 年間を通して安定した学級経営・専科経営
- 小・中連携教育の推進
- 各教科の基礎的な知識・技能の定着を図る。(学習用端末の活用)
- 外国語活動・英語科の指導力向上
- 「特別な教科道徳」の授業の充実を図る。(いじめ防止授業の実施)
- 総合的な学習の時間の充実を図る。(SDGsの取組の学習の充実)
- マラソン旬間、縄跳び旬間の実施、たてわり遊び、外遊びの奨励
- 「さわやかスタート」(毎朝、教員が校門、教室又は昇降口で子どもを迎える)の実施
- 食育の推進(食物アレルギーへの対応)

(2) プロジェクト2「学校・教員・家庭・地域が高め合う」

- 学年会を核としたOJTの実施
- 研究・研修の充実(学習者用端末やICTの利活用)
- 保護者・地域に向けた情報の発信(各種通信、学校公開日)
- 学校評価の充実(保護者・地域よる学校評価・子どもの授業評価)
- 教職員のPTAや地域行事への参加の推奨
- 保護者会、個人面談の実施
- コミュニティ・スクールの実施
- 十小防災連絡会(学校避難所開設準備委員会)の開催
- 放課後子どもクラブとの連携の推進

(3) プロジェクト3「新たな教育のかたちを創造する」

- 地域の教育力の活用(地域支教育コーディネーターとの連携)
- 放課後子ども教室の実施、学校支援ボランティア、青少対との連携

(4) プロジェクト4「抱え込まない教育の実践～組織的・機動的な学校運営～」

- 今年度の工夫・改善点等の各部会及び企画会議での検討
- 安全管理(安全指導や安全点検、保護者のスクールメール登録率100%の維持)
- 子どもの成長を、複数の教職員で確実に見取り、決して一人で抱え込まない体制づくり
- 学校予算の計画的・効果的な執行
- 服務規律の遵守(毎月の服務チェックリストの記入、年間3回の服務研修の実施)